

動向

## 中国における中日語彙対照研究の動向 2019

施 暉

### はじめに

本論文は、中日語彙対照研究を研究対象に、新しいブームと動向を把握するために、2018年下半期から2019年上半期までの1年間における中日語彙について、テーマ別に項目を立てて取り上げ、中日語彙についての対照研究の動向を展望しようとするのが目的である。その結果、中日語彙研究の分野にも役立つものが多々あるかと考えられる。まず断っておきたいのは、各項目への振り分けはあくまで便宜的なものである。また、今回検索した研究文献について、すべてに目を通したわけではないため、偏りや漏れなどの問題点が残っている。これについて、ご寛恕頂ければ幸甚である。

1980年代から、中国における日本語学習者の人数と日本における中国語学習者の人数の急速な増加に応じて、中日言語比較研究は対外教育分野において頭角を現すようになったという(劉笑明等 2015)。従来の研究者の弛まぬ模索と努力により中日比較研究は科学的に成熟した研究システムを備えた学問となり、著しい研究成果が挙げられている。中日語彙対照研究は中日言語比較研究の中に欠かせない重要な一部分であり、すでに様々な視点からアプローチされている。これは毎年開催される「中日比較言語学シンポジウム」や、「漢字文化圏近代語研究学会」などの大規模な学術盛会とも言える学会に関する論文集からも、中日語彙対照研究の活発さの一端を探ることができよう。

表1 2018-2019年中国における中日語彙対照研究の内訳

	数量	研究方法			研究内容				
		実証	認知	生成	音声	文法	翻訳	語源、構成	意味
学術論文	20	14	5	1	1	1	2	8	8

表2 2019年度の国家政府の研究助成金

責任者	類別	テーマ
王鼎	重要項目	日本汉字词语语料库建设与研究 日本語における漢語コーパスの構築と研究
金京愛	一般項目	《尚书》古典文化负载词の日韩译介对比研究 『尚書』における古典的文化を表す語彙の日韓翻訳についての対照研究
楊曉敏	一般項目	基于纵向语料库的日语学习者产出性词汇能力发展实证研究 縦断的コーパスによる日本語学習者の語彙産出能力についての実証研究
徐喜平	一般項目	近代中国和日本在数学翻译中的词汇互借及影响研究 近代中国と日本の数学翻訳における借用語とその影響についての対照研究
陳崗	一般項目	历史语义学视阈下情感词汇的汉日对比研究 史的意味論の視点による感情語彙についての中日対照研究
陳彪	青年項目	基于大型语料库的日语借词辨别整理与研究 大規模なコーパスに基づく日本語出自の借用語に関する弁別方法と研究
鄒文君	青年項目	日语近代汉字词的词史研究 日本語における近代漢語についての語彙史的研究

研究文献について、前期と同じように「中国知網」(CNKI <https://www.cnki.net>)で「日中比較」をキーワードとして量的に調べたところ、中日語彙対照研究に関する論文は20本見つかった。その研究対象による内訳は表1のようである。一方、中日語彙対照研究に関する著書について、「読秀中国語学術検索システム」(读秀中文学术搜索系统 <http://www.duxiu.com>)を使って「中日語彙」を検索し、2冊の著書が見られた。さらに、2019年度の国家政府の研究助成金の中には、中日語彙に関するテーマが七つあった。その詳細は表2の通りである。

表1を見ると、研究方法は実証研究に、研究内容は語源、構成と意味にそれぞれ偏っており、高く注目されることがわかる。

## 1. 学術論文

以下は大きく音声、文法、語構成・語源、意味に分けて、今回検索した論考を取り上げて中日語彙対照研究の動向を紹介する。

### 1.1 音声

徐涵《日语汉字音中的入声字音标记研究—以平安初期至中期的类字音标记及万叶假名标记为中心（日本語の漢字音における入声字（音）に関する研究—平安初期と中期における類字音と万葉仮名を中心に—）》は、平安時代初期と中期の音韻資料を用いることによって、その中に現れている類字音及び万葉仮名を中心に、日本語の漢字音の入声字韻尾を考究した。その主な結果は、類字音は早期中国語の発音の影響を受けている。言い換えれば、類字音は最初に漢字の発音を厳密に参照している。また同一対象であった漢字は日本語の類字音と同じく『広韻』韻目に属するものである。一方、万葉仮名は入声韻尾の後に母音を付け加え、広母音に変わることであり、漢字音の日本語化の過程が反映されると指摘している。

### 1.2 文法

劉劍《“协和語”及其否定句句法特征研究（「協和語」及び否定構文の特徴研究）》は、中国の旅大（現在の大連）に遡ることができ、その後東北地区に蔓延し、さらに中国各地に至るまでに生成した「協和語」（中日混合語、日支合辨語、ポコペン日支那語とも呼ばれる）を研究対象に、言語学の見地に立って「協和語」という否定構文の特徴について分析、考察を行ったうえで、次のようなことを論じている。否定文の位置から考えると、「協和語」のコード形態は日本語によるものである。「協和語」の否定文は中国語の“没有”に由来するものが多く、しかも著しい傾向性を呈している。「協

和語」の中の“没有”という否定文は、中国語の“不”“没(有)”、また日本語の「ない(なかった)」「(て)いない」などの四つの機能を備え、新しい用法として使用されている。

### 1.3 翻訳

邱建鈺《基于功能对等论的新流行热词日译优化应用（等価翻訳理論の視点による新流行語の日本語翻訳語の優先使用について）》は、語彙の内部構造と社会の発展、変遷などの視座に立って、新たに流行した用語に関する語の源流、外来語の現地化、方言からの影響、古い言葉を新しく使う、重大事件によって出来たもの、人気のある人物や作品、目立つ記号など、七つの側面をめぐって考察するとともに、語彙等価、文法等価、章節等価などの翻訳ストラテジーを駆使しながら、機能的等価性という概念を用いることによって流行した用語の優先使用の様相を明らかにしようとしている。

葦暁博・楊暁波《论中国典籍术语的日语训译—以“六书”名目的翻译为例（中国古典書籍における専門用語の日本語の訓訳について—『六書』名目の翻訳を例として—）》は、まずゼロ翻訳と積訳という二つの方法の長所と短所について論じた。そのうえ、『六書』名目を例にし、訓訳は中国古典書籍における専門用語の日本語翻訳の中に大きな役割を果たしたと力説している。つまり、訓訳の科学性と可能性をめぐって考察を行ったところ、以下のことが指摘されている。ゼロ翻訳は日本の読者にとってわかりにくく、しかも誤解などを容易に生じる問題点がある。一方、積訳の分量が多く、注釈に相応しいが本文にはあまり妥当ではない。これに対して、訓訳の方が専門用語の形式を保持することもできれば、意味的にも把握、理解することもできる。簡単に纏めて言えば、ゼロ翻訳と積訳と比べてみると、訓訳は翻訳する際により望ましい方法の一つであると言及している。

### 1.4 語構成・語源

まず、陳力衛《〈汉语大词典〉在处理日语借词上的几个问题（日本語出目の借用語に関する諸問題—『漢語大辞典』を中心に—）》という論文が挙げ

られる。この論文は、今まで中国では最も収録数の多い、また権威のある『漢語大辞典』を研究対象に、日本語出自の借用語を処理する際に見られる四つの問題点について詳しい分析を行った。まず、語源に対する意識の欠如という問題点である。例えば、英語、ロシア語、フランス語などに由来する言葉について、語源の出典を明記し、外来語であると説明したのに対し、日本語の固有語にしても、中国語出自の借用語にしても、いずれ各々の出典は見られなかった。二番目は意味上の解釈に現れる問題点である。これは単に例文から語の意味を推測し、中国語の語形成を基準に日本語出自の借用語を説明する傾向が見られる。このような解釈の形はより主観的であると言えよう。よって、『漢語大辞典』に収録されている日本語からの借用語には、意味解釈の違いが少なくないようである。三番目は例文の不適切さということである。魯迅、郭沫若など有名な文学者の作品を基に例文を選ぶ傾向がある。また、借用語の使い方は限定され、より包括的な説明ができなかった。四番目は時代に遅れる意味解釈の問題点である。例えば、「写真」という単語は日中両言語においては、意味変化（拡大、縮小など）が存在しているが、それについての説明が『漢語大辞典』には見られなかった。さらに「越幾斯」などの言葉も収録されていない、などの問題点について詳細に分析している。

朱京偉《〈译书汇编〉(1900-1903) 中的四字日语借词 (『訳書彙編』(1900-1903) における四文字日本語出自の借用語)》は、語源の考究と形態素の解析という二つの方法を共用し、清末5種類の新聞を研究対象に定量的かつ総合的に調査を施した。例えば語源考証について、四文字日本語出自の借用語を清末新聞より早い日本語用例、日本語には見られない用例、清末新聞より遅い用例、といった三分類に分けて考察を行った。また、四文字日本語出自の借用語について前項構成要素と後項構成要素の特徴についても帰納、分析を試みた。また、朱京偉《从日语外来语的「言い換え」看「漢語」的造词功能 (日本語の外来語の「言い換え」から漢語の造語機能を見る)》は、国立国語研究所が発表した「第一回外来語言い換え提案」と「第二回外来語言い換え提案」を研究資料として、外来語の言い換えを「語形」「品詞」などの

視点から、量的に調査、統計を行ったうえで、中国語出自の言い換えは、二文字漢字、三文字漢字、四文字漢字といった3種類に分け、語構成の特徴、形態、意味などを探ったと同時に、中国語からの言い換え、つまり漢字出自の日本語は日本語における新語、翻訳語などの面において生き生きとした大きな造語機能を果たしていると言っている。

劉孟洋《中日语言互动与术语的生成、演变—以“工人”与“劳动者”为例（中日語彙の交流と術語の生成及び変遷—「工人」と「労働者」を例に—）》は、言語交渉、言語交流の視点から資料に基づきながら「工人」と「労働者」という術語を取り上げ、中日両言語におけるインタラクティブ及び各々の術語の生成、変遷について記述、分析を行っている。「工人」は元々中国語であったが、日本に輸入された後、普及、定着を経て最後に「労働者」にとって変わる。一方、「労働者」は日本語からの借用語であり、中国というコンテクストの中で、まず中国語の土着語である「工人」のかわりに使用されるが、最終的にはやはり「工人」の方がその認知度と使用率が高い、という相互性移動のプロセスを解明している。

劉艷平《清末民初白話報刊日源新詞研究（清末民国初期の白話新聞における日本語出自の新語についての研究）》は、『河南白話科学新聞紙』など合計6種類の白話新聞を対象に、清末民初という時代に日本語出自の新語241個を抽出した。そのうえ、音節構造など四つの方面で新語の特徴について考察を行った。結果として、以下のことが纏められる。1) 音声の面では、漢字の発音を継続して使用していた。2) 語形成について、漢語（中国語）特有の形態素及び造語法を併用し、わかりやすい形を作った。3) 語彙の場合は、主に名詞及び抽象的な名詞が多い。4) 音節構造からみると、二音節の複合語が多い。

楊超時《从“的”字的引入与使用谈近代汉日的语言接触（近代中日言語接触について—「的」という漢字の輸入と使用を中心に—）》という論文は、言語における諸事象は言語接触によってできたものを共時的対照研究、通時的対照研究及び制約要素といった三つの基準があると言及している。本論文はその三つの方法を基に、『清議報』中の「的」という用字を抽出して詳細に

比較、分析を行った。

その他、黎良軍《论日文中的汉源借形词及其回归（日本語における漢語とその漢語の中国語への復帰）》、孫暁《从语源学角度看韩语、日语中的汉字词（韓国語、日本語における漢語の受容について）》などの論文も見られる。

### 1.5 意味

庄倩《中日同形近义词教学法初探—以中国高校日语专业学生产出状况与教学现状为依据（中日同形類義語に関する教授法—中国の大学における日本語専門学生の産出と教育現状について—）》は、難易度のレベルが異なる中日同形類義語を20個選び、35名の日本語学習者を対象にアンケート調査を行った。被験者は全体的に同形類義語の学習状況が良いとはいえない結果であった。これらの問題点を解決するために、語の意味理解に関するトレーニングを行い、授業前後での言語意識の再形成など幾つかの教授法の提案を提示している。

胡琪《“服务”一词的产生及其对应概念的变迁（「服務」という単語の生成とそれに対応する概念の変遷について）》は、日本語からの借用語である「服務」を研究対象に、18世紀から20世紀までの関連資料をまとめて調査したうえで、以下のことを指摘している。日本語の「服務」はフランス語の「Service」から来たもので、その意味範疇は最初に軍事に関連する分野からほかの分野に派生し、日本で定着した後にまた中国語に取り入れられたという意味変化のプロセスがある。

翟勇《汉语“自己”和日语「自分」的语义指向对比分析（中国語の“自己”と日本語の「自分」に関する意味指向対照研究）》は、チョムスキーの統率束縛理論（Government and Binding Theory）に違反する中国語の“自己”と日本語の「自分」といった言語事象について、形態論と語用論の見地に立って諸理論における問題点を見出すことによって、今後の研究課題と研究方向について言及している。

李月明《汉日数分类词范畴化功能的对比研究（中日両言語における数量分類語範疇化機能の対照研究）》は、言語類型学と認知言語学といった視座に

立って、辞書とコーパス調査を結合した方法を利用し、中日両言語における分類語について比較、分析を行った。本論文では、主に「平面形状物体」という概念範疇化された「枚」を中心に、中国語と日本語の使用実態を分析したうえで、両者の対応関係にも探求を試みた。

応学科・王忻《基于框架语义学日汉同形词对比研究—以日语「控」「控る」と汉语“控”为例（フレーム意味論の視点からみる日中同形語の比較研究—日本語の「控」「控える」と中国語の“控”を例に）》は、認知言語学のフレーム意味論に基づき、辞書の語彙記述を中心に、日本語の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」及び中国語の「CCLコーパス検索システム」を対象に例文を抽出し、概念スロットと充填項目原則を利用し、日本語の「控」「控える」、中国語の“控”を個別的に分析したうえで、三つの単語の対照研究も行った。また、具体例を踏まえながら中日両国語の意味の相違を解明すると同時に、意味論の視点では同形語が出現した理由及びそのメカニズムをも探求している。

宗聰《表空间义的日语「地下」和中文“地下”的对比（空間的意味を指す日本語の「地下」と中国語の“地下”について）》は、コーパスから1000事例を取り上げて、それぞれの意味上の特徴、語構成などの視点から両者の共通点と相違点について、分析、比較を試みた。

## 2. 著書

### 2.1 姚佳秀《汉语“谁”和日语「誰」的语义特征及句法功能的对比研究（中国語の“谁”と日本語の「誰」の意味・機能に関する対照研究）》（新華出版社、2018年）

姚佳秀は現代日本語の「誰」と中国語の“谁”の意味、機能に焦点を当てて、主に三つの問題点を解明するために、それぞれの意味特徴や統語特徴を総合的に比較、分析を行った。一つ目は中国語の“谁”はどのような意味機能を有しているのか、その典型的な意味機能と非典型的な意味機能がどのように分布しているのか。二つ目は日本語の「誰」はどのような意味機能を有

しているのか、その典型的な意味機能と非典型的な意味機能がどのように分布しているのか。三つ目は、日本語の「誰」と中国語の“谁”について、意味機能はどのように共通し、また、どのように食い違っているのか。以上、三つの問題点を明らかにすることによって、中国語教育、日本語教育、さらに日本語の習得、中国語の習得にも大きく寄与できると考えられる。具体的な目次は、以下の通りである。

## 序章

- 1 研究の目的と意義
- 2 研究の範囲
- 3 研究の方法
- 4 論文の構成

## 第1編 中国語の“谁”の構文的分布

### 第1章 疑問表現における“谁”の意味・機能

- 1 はじめに
- 2 先行研究と問題点
- 3 疑問の意味を表す“谁”の意味特徴
- 4 疑問を表す“谁”の構文的分布
- 5 この章のまとめ

### 第2章 “谁”の意味・機能の広がり

- 1 「例外なし」を表す“谁”の構文的分布
- 2 不定を表す“谁”の構文的分布
- 3 連鎖構文“谁<sub>1</sub>～谁<sub>2</sub>～”の使用条件

### 第3章 “谁”の語用的意味

- 1 はじめに
- 2 先行研究と問題点
- 3 反語の意味を表す場合
- 4 代用を表す場合
- 5 問い返す意味を表す場合
- 6 反駁の意味を表す場合

7 まとめ

第2編 日本語の「誰」の構文的分布

第4章 疑問表現における「誰」の意味・機能

- 1 はじめに
- 2 先行研究と問題点
- 3 「誰」の意味特徴
- 4 「誰」の構文的分布
- 5 まとめ

第5章 「誰」の意味・機能の拡がり

- 1 「例外なし」を表す「誰」の構文的分布
- 2 不定を表す「誰」の構文的分布

第6章 「誰」の語用的意味

- 1 はじめに
- 2 戦慶勝(2003)の問題点
- 3 反語を表す「誰」の語用的意味
- 4 代用を表す意味・用法
- 5 反駁を表す意味・用法
- 6 まとめ

第3編 総合的対照分析

第7章 疑問を表す“谁”と「誰」の対照分析

- 1 はじめに
- 2 先行研究の再検討
- 3 疑問を表す中国語の“谁”の意味・機能の概観
- 4 疑問を表す日本語の「誰」の意味・機能の概観
- 5 対照分析
- 6 まとめ

第8章 “谁”と「誰」の意味・機能の多様性

- 1 “谁都～”と「誰＋でも」「誰＋も」の共起制限の比較
- 2 “谁也～”と「誰＋も」の共起制限の比較

- 3 不定を表す日本語の「誰+か」と中国語の“谁”の構文的分布
- 4 中国語の連鎖表現にあたる日本語表現

## 第9章 “谁”と「誰」の語用的意味に関する対照分析

- 1 はじめに
- 2 先行研究の再検討
- 3 “谁”の語用的意味の概観
- 4 「誰」の語用的意味の概観
- 5 対照分析
- 6 まとめ

## 終章 本研究の意義

### 2.2 費曉東《日语汉字词汇的听觉认知研究（聴覚的認知による日本語における漢語についての研究）》（外語教学與研究出版社、2018年）

費曉東は日本語学習者の聴覚的認知機能に着目し、日本語漢字単語の処理過程における心内辞書の働き方や、中日同形同義語・異形語の聴覚的認知過程などを中心に、実験的方法を用いることによって日本語における漢字語彙の聴覚的認知プロセスを明らかにした。その結果は従来の中日同形同義語・異形語に関する研究に役立っている。その内容は以下の8章からなっている。

#### 第1章 問題と目的

- 第1節 はじめに
- 第2節 心内辞書及び単語認知過程
- 第3節 本書の目的及び位置づけ

#### 【コラム1】中日漢字における転移効果

#### 第2章 第二言語の単語認知過程に関する先行研究の概観

- 第1節 表音文字を有する印欧語族に関する研究
- 第2節 表意文字を有する中国語と日本語に関する研究
- 第3節 問題の所在及び本書の課題設定

#### 【コラム2】データ分析1：分散分析（F検定）

#### 第3章 日本語漢字単語の処理過程における心内辞書の働き方

第1節 言語間プライミング課題による検討（実験1）

第2節 読み上げ課題による検討（実験2）

第3節 実験1、2のまとめ

【コラム3】データ分析2：t検定

第4章 中日同形同義語・異形語の聴覚的認知過程(1)

—語彙判断課題を用いた実験的検討—

第1節 中国国内の上級学習者を対象とした検討（実験3）

第2節 中国国内の中級学習者を対象とした検討（実験4）

第3節 日本留学中の上級学習者を対象とした検討（実験5）

第4節 実験3、4、5のまとめ

【コラム4】データ分析3：相関関係

第5章 中日同形同義語・異形語の聴覚的認知過程(2)

—口頭翻訳課題を用いた実験的検討—

第1節 中国国内の上級学習者を対象とした検討（実験6）

第2節 中国国内の中級学習者を対象とした検討（実験7）

第3節 日本留学中の上級学習者を対象とした検討（実験8）

第4節 実験6、7、8のまとめ

【コラム5】日本語教育のための心理学研究

第6章 中日同形同義語・異形語の聴覚的認知過程(3)

—一文の先行呈示事態を用いた検討—

第1節 中国国内の上級学習者を対象とした検討（実験9）

第2節 中国国内の中級学習者を対象とした検討（実験10）

第3節 実験9、10のまとめ

第7章 中日同形異義語の聴覚的認知過程

—語彙判断課題を用いた実験的検討—

第1節 日本留学中の上級学習者を対象とした検討（実験11）

第2節 同形異義語による今後の研究課題

第8章 日本語漢字単語の認知メカニズム

第1節 漢字単語の処理過程に及ぼす母語の影響

第2節 本書の意義

第3節 日本語教育への示唆

第4節 今後の課題

参考文献

おわりに

以上、2019年中国における中日語彙対照研究の動向について大まかな内容を紹介したが、見落とし、読み誤り、理解不足などの問題点が幾つもある。これを今後の課題として改善すべきである。また、《日语研究论文精选》(商務印書館)は2019年に出版され、多くの研究成果を上げている。これを契機に日本語研究が一層高まり、中日語彙対照研究に関する成果を上げていくことが期待されよう。

参考文献

- 陈力卫 (2019) 《〈汉语大词典〉在处理日语借词上的几个问题》[A], 《日语研究论文精选》商务印书馆, pp. 488-494.
- 翟勇 (2019) 《汉语“自己”和日语「自分」的语义指向对比分析》[A], 《汉日语言对比研究论丛》第10辑, pp. 69-82.
- 费晓东 (2018) 《日语汉字词汇的听觉认知研究》[M], 北京: 外语教学与研究出版社.
- 胡琪 (2018) 《“服务”一词的产生及其对应概念的变迁》[J], 《日语学习与研究》第4期, pp. 8-16.
- 黎良军 (2018) 《论日文中的汉源借形词及其回归》[J], 《汉字文化》第20期, pp. 3-9.
- 李月明 (2019) 《汉日数分类词范畴化功能的对比研究》[A], 《汉日语言对比研究论丛》第10辑, pp. 98-112.
- 刘剑 (2019) 《“协和语”及其否定句句法特征研究》[J], 《日语学习与研究》第1期, pp. 38-45.
- 刘孟洋 (2018) 《中日语言互动与术语的生成、演变—以“工人”与“劳动者”为例》[J], 《日语学习与研究》第5期, pp. 46-55.
- 刘笑明等 (2015) 《日汉对比语言学》[C], 天津: 南开大学出版社.
- 刘艳平 (2019) 《清末民初白话报刊日源新词研究》[J], 《齐鲁师范学院学报》第2期, pp. 130-136.
- 芦晓博·杨晓波 (2019) 《论中国典籍术语的日语训译—以“六书”名目的翻译为例》[J], 《浙江理工大学学报(社会科学版)》第5期, pp. 146-151.

- 邱建钰 (2019) 《基于功能对等论的新流行热词日译优化应用》[J], 《宁波教育学院学报》第3期, pp.73-76.
- 孙晓 (2019) 《从语源学角度看韩语、日语中的汉字词》[J], 《山东师范大学学报(人文社会科学版)》第1期, pp.134-141.
- 徐涵 (2019) 《日语汉字音中的入声字音标记研究—以平安初期至中期的类字音标记及万叶假名标记为中心》[A], 《高等日语教育》第3辑, pp.111-121.
- 杨超时 (2019) 《从“的”字的引入与使用谈近代汉日的语言接触》[J], 《北京科技大学学报(社会科学版)》第2期, pp.32-39.
- 姚佳秀 (2018) 《汉语“谁”和日语「誰」的语义特征及句法功能的对比研究》[M], 北京: 新华出版社.
- 应学科·王忻 (2019) 《基于框架语义学日汉同形词对比研究—以日语「控」「控る」和汉语“控”为例》[J], 《日语学习与研究》第2期, pp.66-75.
- 朱京伟 (2018) 《〈译学汇编〉(1900-1903)中的四字日语借词》[A], 《高等日语教育》第2辑, pp.95-108.
- 朱京伟 (2019) 《从日语外来语的「言い換え」看「漢語」的造词功能》[A], 《日语研究论文精选》商务印书馆, pp.470-487.
- 庄倩 (2018) 《中日同形近义词教学法初探—以中国高校日语专业学生产出状况与教学现状为依据》[A], 《日语教育与日本学》第1期, pp.31-42.
- 宗聪 (2019) 《表空间义的日语「地下」和中文“地下”的对比》[A], 《汉日语言对比研究论丛》第10辑, pp.59-68.

施暉 Shi Hui 蘇州大学外国語学院教授 専門: 日本語学・日中言語文化比較